

発行日：2015年4月1日

地域サポーターの一員として

目黒区民生児童委員南部第1地区会長
社会福祉法人 もえぎの会 理事
牧野 雅子



確か2000年6月頃の民児協正副会長会議だったと思います。福田代表会長から「目黒区に初めて自閉症児のための通所授産施設が開設されることになり、その地域代表の理事として民生委員の要請がありました。目黒本町2丁目なので…」と私を見たのが「もえぎの会」とのお付き合いの始まりでした。

その頃は権之助坂の途中に施設があり、そこで「親の会」とスタッフの皆さんが開設申請に必要とされる膨大な量の資料を準備していました。その分厚い書類を都庁へ提出する際に何度か同行したことが懐かしく思い出されます。自閉症という障害に初めて接し、「わが子の幸せは自分たちの手で創り上げていく」という「親の会」の切実な、でも力強い決意を知り、福祉について改めて考えるきっかけをいただきました。

私宅から歩いて数分の所に通所授産施設「しいの実社」が開設されたのは2002年4月、その後2006年8月に最初のグループホーム「沙羅の家」が南町会に開設し、続いて向原、大岡山にオープンしました。

2004年に発足した後援会には南部第1・2地区の民生委員全員が入会し、今年で10年目を迎えました。週1回の「夕食ボランティア」には、民生委員の他に民生協力員も参加しています。沙羅の家に行くと何故かほっとします。利用者さん達の純真な心に触れ、言葉は交わせなくても、少しだけ気持ちのキャッチボールが出来るようになった気がします。別れるときにハイタッチして次週の再会を約束しますが、私たちはその時間だけの訪問者に過ぎません。利用者さん達が明るく、楽しく生活できている陰には、寝食を共にし、支えている沢山のスタッフの優しさがあります。彼らの温かい人柄に触れ、感動すると同時に、その優しさ故の繊細な心を大切にしたいとも思っています。目黒区のこの地が「みんなの街、みんなの居場所」となるように、これからもずっと、しいの実社の社員とスタッフの方々を見守る応援団の一員でありたいと願っています。

2015年度 もえぎの会 事業報告会・懇親会のご案内

下記のように本年度の開催を予定しております。

7月11日(土) 目黒区総合庁舎 2階大会議室

改めて、ご案内をお送りいたします。ぜひ、お誘いあわせの上、ご出席していただきますようお願い申し上げます。



昨年の様子

しいの実社 2015年度事業計画

しいの実社は、2015年度より、2施設体制で運営を開始します。無認可の作業所として開始して、30年以上経過し、地道な実践の積み重ねにより、多くの皆様に支えられ、今日に至ることができました。そこで、しいの実社への入所を希望される方の要請に応え、しいの実社の社員のニーズによりきめ細かく応えるために、運営体制を変えることとしました。

より要望の多い生活介護事業の定員を14名から20名に増やし、2施設合わせた定員を50名から56名とします。社員の特性や年齢に合った環境を提供するために、2階のクラフト(生活介護事業)と織物(就労継続支援B型事業)は、合わせて生活介護事業とし、ハンドメイド部門として一体運営をします。就労移行支援事業は、就労実績達成に向けて、外部と連携して、社員・家族の意識を高める取り組みをします。全体の課題として、高齢化や重度化に対応する仕事の仕方、時間の過ごし方を試行錯誤して、取り組みます。

昨年度実施した第三者評価で指摘を受けた課題改善に取り組み、評価された部分をさらに強化して、より良い施設運営を目指します。

● しいの実社(定員 30名)

就労継続支援B型事業(定員 10名)

仕事の安定的供給

施設外の活動の継続

工賃の向上

地域の障害者理解の拡大

生活介護事業(定員 20名)

社員の安定した生活の支援

年齢、特性に合った仕事の提供

体力の向上、生活を広げる活動

● しいの実社 学芸大学スマイルプラザ (定員 26名)

就労継続支援B型(定員20名)

仕事の安定提供

高齢者向けサービスの試行

就労移行との連動

就労移行支援事業(定員 6名)

就労に向けた取り組み

一般就労の実現

生産維持と社会参加

しいの実社	30名
生活介護事業	
しいの実社	20名
就労継続B型事業	
しいの実社	10名
しいの実社 学芸大学スマイルプラザ	26名
就労継続B型事業	
しいの実社 学芸大学店	10名
しいの実社 スマイルプラザ	10名
就労移行支援事業	
しいの実社 スマイルプラザ	6名

2施設運営といっても、年間行事の社員旅行、しいの実祭、11施設交流会をはじめ、土曜開所などの余暇活動、社員の高齢化対策や健康管理のための健康診断、健康相談や健康体操などは従来通り、全体で実施します。

特に、高齢化対策は、しいの実社だけの問題ではなくて、行政、関係機関や他施設と連携して、日常生活、社会生活に加えて、将来設計を合わせて実践できるように検討を継続します。そのため、国の検討状況の確認をしつつ、要件の整理、実践の計画、人材の育成に努めます。

他にも、地域とのつながりを強化し、地域の要請に応えるために、町会、商店街と連携して、地域のイベントへの積極的な参加や小学校、中学校の職場体験や施設実習、特別支援学校の実習を受け入れ、土曜日開所の昼食を地域のお店で取るなど地道に理解を深くする活動を継続していきます。

第13回 しいの実祭 開催

2014年11月22日(土)にしいの実祭を開催し、1500名を超える人が参加しました。お隣の白川電機様・五十嵐電機様・平研磨製作所様、そして毎年総出で焼きそばにフランクを焼いて下さる清水町会様。テントや椅子を毎年お借りしている第7中学校様。その他にも大勢の皆様の力を借りて、盛大に開催することができました。

天気予報にドキドキしながらも、社員・スタッフを合わせて100名を超え、後援会・家族会・ボランティアさんも加わると200名に届きそうな人数で、近隣の皆様のご協力により、開催できています。

しいの実社の施設・社員に触れていただける貴重な場として、今後とも参加者みんなが楽しめる祭として開催していきます。



毎年売り切れ！
清水町会



子どもに大人気！
でかばっく



お客様とじゃんけん！
スタンプラリー



生産に販売に、
社員が活躍

ボランティアさんに支えられて

しいの実社では、週10名程のボランティアさんに活躍していただいています。グループホーム沙羅の家では、開設以来、長く食事作りをしていただいています。

決まった活動としては、お店の販売、織物の仕上げ、クラフトの作業補助や仕上げなどがあります。特技を生かしたデザインも担当していただくこともあります。また、出張販売や外出の付添ボランティアに参加していただくなど、年代も職業も様々な方がいます。社員宿泊研修旅行やしいの実祭など大きな行事では、多くのボランティアさんに支援していただいています。

最近では、高齢になってきた社員の話に耳を傾けていただき、支援していただける方がありがたいと思うこともあります。スタッフの補助だけでなく、地域の理解者として、社員を知っていただき、街で出会った時に声をかけていただいたり、助けていただいたりできたらありがたいと思います。

ボランティアさんには、お知り合いに、障害者が地域で生活している様子を伝えて、理解していただく方を増やしていただくことも期待しています。障害者とふれあいことで癒されるとおっしゃるボランティアさんの声も時々聞くことができます。知ってみたい、触れ合ってみようとお興味をお持ちいただきまして、気軽に見学にいらしていただければ幸いです。

しいの実祭



活躍するボランティアさん



ショップの販売



マフラーの仕上げ



土曜開所のカラオケ



社員宿泊研修旅行

後援会

会員インタビュー

サ 萌 木



かきのき眼科

品川区小山6-3-9 ウエスト
ヴィレッジビルディング4階
TEL 03-6426-4639
<http://kakinokiganka.jp>

西小山駅の周辺には各種のクリニックがありますが、今回お訪ねした「かきのき眼科」も改札口を出てすぐのウエストヴィレッジビルディングの4階にありました。同じビル内には内科、皮膚科、調剤薬局もあり、利用者にとってとても助かるロケーションです。親しみやすい柿の木のロゴと受付の方のやさしい笑顔に迎えられて、明るく清潔なクリニックにお邪魔しました。院長の柿木一邦(かきのきかずくに)さんは、4児の父で野球がご趣味のスポーツマンです。もえぎの会の後援会には、しいの実社の利用者のご家族とのご縁で入会して下さいました。

開業されたのは2009年。クリニックには3名の視能訓練士の方々が常勤されており、様々な検査をはじめ、オルソケラトロジー(手術をしない近視治療)、涙道疾患、小児眼科など、他では扱いが多くないことにも力を注がれています。また、毎週、聖路加国際病院でも診療を行っていらっしゃいます。

来院される患者さんは0歳から90歳代まで幅広い年代の方々ですが、目に関してどんなことで困っていらっしゃるのか、原因を早く取り除いてあげることがもちろん、話を充分に聞くこと、丁寧に説明すること、そしてあきらめず頑張りたいと心のケアにも重点を置くことが開院当初からの変わらぬ信念とおっしゃいます。「来院される方が増えてきていますが、信念を守り、目のことで困ったらかきのきへ!」と言っていただけるよう地域に根差した診療でチャレンジを続けたいです。」とお話し下さるお姿と「育児は楽しいですし、今しかないですね。」とおっしゃる姿は、まさに働き盛り、イクメン盛りの象徴でした。これからの一層のご活躍をお祈りします。



柿木一邦院長



多くのクリニック、
薬局が入居

株式会社ユーアンドエー建築設計事務所

大田区北千束1-2-14
TEL 03-5731-6150

もえぎの会が運営するグループホーム沙羅の家の設計者竹内隆平社長にお話を伺いました。「自分が関わった建物を時間が経ってから確認に訪れることはしあわせです。」と、おっしゃる竹内さんは、物作りが大好きな少年だったそうです。放送局用マイクロフォン製造のお仕事をされていたお父様のDNAでしょうか。当然、跡を継ぐだろうという周囲の思いに添わず、隆平少年は、中学生の頃に初めて作った住宅の模型にすっかり魅せられ、わが道を行くことになります。

建築学科に進み、卒業後は大手建設会社の設計部に就職。木造の横浜銀行支店の設計や現場も経験されます。昭和40年代には、本格的に普及する「マンション」の設計やマンションへのユニットバス初導入などに取組まれました。その後、知人の誘いで建築事務所に転職し、鎌倉信用金庫(現湘南信用金庫)の本店を設計するというまさに人生のターニングポイントともいえる仕事に出合われます。周囲も自分も納得のいく高い評価でますます仕事に拍車がかかります。39歳で独立され、鎌倉信用金庫の支店なども続けて設計されましたが、手掛けられたマンションは300棟を下りません。

グループホームは初めてで「若干普通の住居と違いましたが、住む人にうまく反映されればよいなと

思います。」とおっしゃいます。3か所とも、もう少し時間と予算があれば...と双方同じ思いでもありました。もっとグループホームの設計は続けて行きたいと力強いお言葉をいただきましたので、ご趣味のクラシック音楽の鑑賞やヨットのお時間はなかなかとれないかもしれませんが、これからもよろしく願いいたします。



竹内隆平社長(地鎮祭にて)



沙羅の家 大岡山

もえぎの会後援会設立10周年を迎えて

もえぎの会後援会は、2004年に設立され、活動を開始しました。会員40名足らずでスタートした活動は、皆様の支援の輪が広がり、4月1日現在505名となっております。後援会の活動により、もえぎの会に対して、財政支援、販売支援、作業支援、研修支援など多岐に渡る支援をしていただいております。さらに、「地域に理解され、地域に根ざしたサービスの創造をはかる。」という理念に向けて重要な役割を果たしていただいております。厳しい環境の中で、地域の要請に応え、安定した事業運営をするために、後援会は、ますます重要な役割をはたしていただくことになります。今後とも、ご支援いただけますようお願い申し上げます。



しいの実社の食堂で開催された
設立総会(2004年9月18日)

財政支援(寄付)の実績

- 社員宿泊研修旅行補助、事業報告会、記念式典開催補助、記念DVD制作発行
- 【しいの実社】ロッカー、スリッパ入れ、ホイロ、更衣室、食堂椅子、番重洗浄機 など
- 【学芸大学店】店舗展示写真額 など
- 【スマイルプラザ】食堂テーブル・椅子 など
- 【沙羅の家】電動自転車 食器棚 など

後援会設立10周年記念事業

目黒雅叙園において、障害者の書道展の見学と食事会

「ダウン症の天才書家 金澤翔子×百段階段 ～共に生きる～」

目黒という地域で、障害を持つ人が、生活することを目指すもえぎ会の理念を考え、後援会として、社員やスタッフを招待していただき、障害者の書道展を目黒のランドマークともいえる目黒雅叙園で見学し、貴重な体験をすることができました。

日程 12月17日(水)

見学 書道展見学(百段階段)

食事 クラブラウンジ(ビュッフェ)貸切



新規後援会員をご紹介します

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ち頂くか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会後援会

問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局(電話:03-5724-7153)

* 恐れ入りますが振り込み手数料はご負担願います。

祝日のイベント

世話人 長谷茂雄

12月の天皇誕生日と2月の建国記念の日の祝日は、恒例の外出などのイベントで、グループホームごとに行いました。

南は、2回とも外食でした。12月は武蔵小山でハンバーグを食べ、2月は新しい入居者さんのお祝いも込めて大岡山の精養軒でちょっとリッチな洋食ランチを楽しみました。食欲の衰えを知らない南のメンバーには外食イベントが良く似合います。

向原は、12月はクリスマスということで、みんなでケーキ作りを行いました。ケーキの材料の買い出しの時にちょっと寄り道をして、南と大岡山の沙羅の家の見学もしました。しいの実社では普段顔を合わすメンバー同士ですが、初めて他のホームを見る人は興味津々な様子でみてまわり、いつもと違った新鮮な雰囲気、たまにはこのような交流も面白いなと感じました。2月は防災・避難訓練を行い、合わせて防災グッズの見直しをし、足りない物品の買い出しに行ってきました。帰りにはみんなが大好きなイタリアンランチを武蔵小山のサイゼリヤで腹いっぱい食べました。

大岡山は、12月は向原と同じようにケーキ作りを行いました。大岡山にはケーキ職人の経験を持つ利用者さんとしての実社が誇るパン職人がいるので、手際良くお互いの作業を意識しながら美味しいケーキを作りました。2月は深沢にあるロシア料理店へ行っています。普段、沙羅の家では、まず提供しない料理であり、こんな機会だからとチャレンジしました。

今年の8月には開設10年目に突入する沙羅の家ですが、今年度もみんなで楽しめる企画を行いたいと考えています。

沙
羅
の
家



↑ランチを楽しむ
↓大岡山まで外出



編集後記

新しい年度を迎え、課題もたくさんありますが、1つずつクリアして、一步一步成長したいと考えています。これからも、よろしくご支援・ご指導をお願いいたします。(岡田な)

沙
羅
の
家

向
原



↑ケーキづくり
↓真剣に防災訓練



沙
羅
の
家

大
岡
山



↑ロシアレストランで
↓食後のバドミントン?



発行: 社会福祉法人もえぎの会

住所: 目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部) 電話: 03-5724-7153

e-mail: shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

http://www.moeginokai.jp/

